



現代人形研通信

9号 2025年4月発行

メールマガジンをお送りしているアドレスは送信専用です。事務局へのご連絡は member.gendainingyo@gmail.com へお送りください。

contents

- ・現代人形研からのお知らせと活動報告
公募展募集要項まとまる

- ・インフォメーション

- ・展覧会レポート
松沢香代個展「石蟬」

- ・徒然コラム
「ルハンシクからの便り — それから」
羽関チエコ



東京都美術館

現代人形研からのお知らせ

動画編集の遅れ

「11月9日のトークイベント」や、CoNiCS展での招待作家マーレン・フェアヘルストのインタビュー動画の編集が遅れています。公開しましたら、当会のInstagramでお知らせいたします。しばらくお待ちください。

<https://www.instagram.com/gendai.ningyou/>

年会誌、通信 原稿募集

- ・人形に関する考察、論文など。
- ・アーカイブに推す作品や展覧会のレポート

※展覧会・作品レポートは随時募集しています。基本的に当年発表の新作、展覧会は個展が対象です。

自薦他薦可。他薦の場合は対象が当会会員でなくても構いません。年会誌はその年の優れた作品や表現をアーカイブとしていくことを目的としています。

関心のある方は、member.gendainingyo@gmail.com の羽関までご連絡ください。内容を編集委員会で検討させていただきます、お返事をいたします。

公募展 募集要項

当会が取り組む初めての公募展の概要が決まりました。

5月には要項を印刷し配布する予定です。 当会ホームページでも情報公開します。

公募展 人形研展 応募要項（一部抜粋）

詳細はインターネットやプリントで発表する「応募要項」をご参照ください。

本公募展は特定非営利活動法人 現代人形文化研究会の会員・非会員を問わずに、プロ・アマ・学生、誰でも応募できます。

粘土人形、ビスクドール、布人形、ぬいぐるみ、3D プリンター作品、工芸品、彫塑など、人や生き物を表現する作品であれば素材や技法、ジャンルは問いません。

【主催】 特定非営利活動法人現代人形文化研究会

【会期】 2025年12月13日（土）～14日（日）、16日（火）～20日（土） 10:00→17:00（入場は16:30まで）最終日入場13:30まで／閉会14:00

【搬入】 2025年12月12日（金）11:00-16:30

【搬出】 2025年12月20日（土）14:00-17:00

【会場】 東京都美術館 〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36 TEL 03-3823-6921

【審査員】

審査委員長 四谷シモン（人形作家）

特別審査員 日比野克彦（東京藝術大学学長）

杉田明十志（人形作家）、長尾千斗（横浜人形の家キュレーター、横浜美術大学非常勤講師）、ピコピコ（怪獣芸術家）

水澄美恵子（人形作家）、ミヤタケイコ（造形作家）、矢部藤子（人形作家）、山本由也（マリオネット・アーティスト）

よねやまりゅう（造形作家）

【賞】

1. 現代人形文化研究会大賞（1 名）
2. 審査委員長賞（1 名）
3. 特別審査委員賞（1 名）
4. 各審査員賞（8 名）
5. under 22 賞（3 名）22 才以下の応募者が対象
6. CoNiCS 賞（10 名）会場内のアンケートによる投票

副賞

1. と 2. 作品と本人紹介の動画を現代人形文化研究会で制作し Youtube チャンネルで公開します。
1. ～ 5. 共通 賞状、審査講評を現代人形研通信に掲載、作品を年会誌に掲載、「現代人形研通信」一年間無料送付
6. 賞状、作品を年会誌に掲載

※当会は現代の人形文化への関心をアーカイブとすることをテーマに非営利活動法人として 2023 年に活動を開始しました。会費のみの資金で運営しているため、賞金を準備することができません。会としては受賞作品の評価を広め、残すための活動をいたします。ご理解いただければ幸いです。

【応募～出品までのスケジュール】

- 8 月 13 日（水）受付開始日
- 10 月 13 日（月）第一次写真審査応募〆切（必着）
- 11 月 12 日（水）第一次写真審査結果通知 本人宛に封書で発送※このとき、審査通過した方へは、搬入の案内を同封します。
- 12 月 12 日（金） 搬入
- 12 月 13 日（土）～ 14 日（日）10:00-17:00 会期、及び審査期間
- 12 月 15 日（月） 休館日
- 12 月 16 日（火）～ 19 日（金）10:00-17:00 会期、及び審査期間
- 12 月 20 日（土）13:30-14:00 展示会場にて授賞式
- 12 月 20 日（土）14:00-17:00 搬出

【応募規定】※一部抜粋 詳細はインターネットやプリントで発表する「応募要項」をご参照ください。

- ・点数 1 人 1 点のみ（組作品は人形または展示パーツ 2 点までを 1 点とします）。土台（ビネット）一色のジオラマの場合は 1 点とする。
- ・サイズ：高さ 170cm 以内。※極小作品はアクリルカバーなどをご用意ください。
- ・2024 年以降の公募展で未発表、未受賞、未販売の作品であること（個展、グループ展、卒業制作などでの発表済作品は応募可）。
- ・人形本体に既成品を使用する場合は、その旨明記すること。（グラスアイ、ウィグは明記不要）
- ・未完成、制作途中の作品は応募できません。

【出品料】

[インターネット応募] 一般 ¥12000 学生 ¥3,000 現代人形文化研究会会員 ¥10,000（正会員・賛助会員ともに）

[郵送による応募] 一般 ¥13000 学生 ¥4,000 現代人形文化研究会会員 ¥11,000（正会員・賛助会員ともに）

※一次審査で落選した方には、振り込み手数料を除いた残額を返金いたします。

※ご注意 〆切を超えて応募料のご入金が確認できない場合は応募とみなしませのでご注意ください。

【委託飾り付け・撤収手数料】

遠方の方には当会が別途手数料にて飾り付け・撤収を代行します。手数料は片道 4000 円

※個人で運搬から飾り付け、撤収を代行する業者を利用することも可能です。

◎応募方法 ※フォームのリンクや送金先、質問事項はインターネットやプリントで発表する「応募要項」をご参照ください。

【インターネットの方】

①基本情報と作品情報の提出：

応募フォームから（フォームのリンクはインターネットやプリントで発表する「応募要項」をご参照ください。）

②画像の送信 contact@gendainingyo.net

③応募料の送金

【郵送の方】

①基本情報と作品情報の提出：質問事項への回答を A4 サイズの紙に記入してください。

②画像の提出 プリントで郵送してください。

③応募料の送金

人形研展について

当会は2023年10月に「特定非営利活動法人現代人形文化研究会」として有志数名で都の認証を受けて活動を始めました。それ以前は人形の作り手があつまる任意団体「チーム・コヤール」として2008年から2023年まで活動し、隔年で4回、渋谷のNHKホールギャラリーで公募展を開催しました。人形作家の四谷シモンさんは私たちの取り組みをいつも応援してくださり、すべての公募展に審査でご協力をしてくださいました。今回も審査にご協力をいただくことになっています。

私たちに関心の対象とするのは広義の「人形」です。人形は、人や動物の姿をなぞること以外は、素材も表現方法も何の規定もない自由な媒体であり、私たちはそのような人形という媒体と日本の文化や社会との関わりに注目しています。

人形は人類の歴史とともにあった造形物ですが、文明の発展にともない分類が進みました。その分類は、アニメズムの時代からの影響が現代にも続いている日本と、一神教の影響で玩具(doll)とアイコンが明確に分割された西洋ではかなり異なるものです。

そのせいか、明治時代になって日本が西洋美術の文化の影響を受けるようになると、ドレスコードのように人形というだけで美術館には受け入れられませんでした。

そこで、昭和の初期に帝展の工芸部門に人形が入選することを目標として人形芸術運動がおこりました。その成果により人形作家は入選を果たしますがその後は、自由な造形作品であった人形が自らを縛り、美術団体や美術として受け入れられるべきサイズや素材の規格をつくり、今では保守的な体制を構築してしまったように見えます。それにもかかわらず、人形の作り手が評価を得る、認め合う場として発表の場を「美術」展に求める傾向は、今も変わりません。

一方で現代美術家が、サブカルチャー、ポップカルチャーやミクストメディアの表現として人形をとりあげる例があります。しかし人形からのアプローチは難しく、美術関係者に作者が「人形を作ってます」というだけで、差別的に見られることがあります。また、明らかに人形作家なのに、「人形作家と呼ぶな」という著名な方もいます。逆に反骨精神のある方は彫刻と並んでもいいような作品でも「私は人形作家です」という方もいます。

私は人形作家たちを「文化的先住民」と呼ぶことがあります。古くから連綿と作られている人形に関わることでなくなってしまった人達や作品が、外部からのボーダーによって位置づけられない、グレーゾーンに取り残されたままになっている感覚を覚えます。

私たちの「人形研展」は都美術館として初めての人形専門の公募展となります。約90年前、人形芸術運動が帝国美術院展覧会(帝展)の工芸部門に人形で挑戦したのが、前身である東京府美術館でした。同じ館で公募展を開催するのは偶然なのですが、この機会にこの公募展を人形というものを考えるときのひとつの針路となるような展示に育てたいと思っています。

当会は企業の支援などがなく、理事も残念ながら日々の生活に追われています。スポンサーのあてもありませんが、このような大きな公募展に取り組むことにしました。応募者に多額な賞金や立派な名誉は用意できませんが、この公募展に出品する意義を見いだせるように各応募者にフィードバックや交流の機会を提供できるようにします。

幸い、素晴らしい審査員の方々のご協力をいただくことができました。

多くの出会いが生まれることを期待しています。

どうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人現代人形文化研究会
理事長
羽関チエコ

審査員からのメッセージ

四谷シモン（人形作家）

作品には。
エネルギー。勢い。情熱。静謐。
作り手の手先からこれらが流れ込んで
作者の面影が漂う人形が生まれる。
人形は不思議だ。
不気味さと可愛らしさが同居している。
作者の無意識が一番出やすいものなのかもしれない。

長尾千斗（横浜人形の家 キュレーター、横浜美術大学非常勤講師）

人形をつくる理由は何でしょうか？ そこには十人十色の答えがあるかと思います。物理学の世界では全ての物質は長い時間をかけて鉄になってゆくのではないかと言われています。ビスクドールが土からつくられていると聞いた時、それに似た驚きがありました。人の手を通じた自然物は、この世とあの世の中間的な世界を作り出している、私にはそんな風に思えます。人はたとえ貧しい中でも人形を、ひとがたをつくってきました。時に紙であったり、土であったり、動物の骨や角であったり。人形、大きい文脈での「ひとがた」はどの時代にも絶えずつくられてゆくものだと思います。そして今、同時代の人々がどのような人形をつくるのかとても興味があります。そしてそれを皆で見て分かち合うこと、楽しむことは、実は縄文時代の土偶を通じた文化と何ら変わらないのではないかと思います。土偶とビスクドールは同じ「土」からできているという事実。人形というものをこういうものだと決めつけず、その人にしかできない表現に出会えることを期待しています。

山本由也（マリオネット・アーティスト）

人形を創作する過程は様々で、独自の労力を費やして完成した作品はそれぞれに魅力的だと思います。ユニークで圧倒的な作品に出会えるのを楽しみにしています。

ピコピコ（怪獣芸術家）

既成概念にとらわれない、ビックリするようなものが見たいです。

杉田明十志（人形作家）

以前にもまして、「私が作る」ということが取り分け大切に思われます。皆様の作品を楽しみにしています。

よねやまりゅう（造形作家）

今まで見たことが無い、妖しい作品に出会えたらなとおもっています。

ミヤタケイコ（造形作家）

どんな作品が見られるのか楽しみにしています！

水澄美恵子（人形作家）

想像をいかに形にできるか、失敗を恐れずに自分のアイデアに自信を持って皆さまの創造力を発揮してください

矢部藤子（人形作家）

あなたの手の中から生まれた大切なものを心を込めて丁寧に見せていただきます。とても楽しみです。

インフォメーション

展覧会情報

金子國義・四谷シモン「1967年、ある日」展

4月12日(土)～5月18日(日) OPEN 水/木/金/土/日 12:00～18:00
定休日 月/火 最終日17:00閉廊
Librairie 6 東京都渋谷区恵比寿南1-12-2 南ビル3F
TEL 03-6452-3345 URL <https://librairie6.com>

杉田明十志人形展

4月5日(土)～6月1日(日) OPEN 土/日/祝日 11:00-19:00
※ライブ開催時は17:00まで
ギャラリー&カフェ山猫軒 埼玉県入間郡越生町龍ヶ谷137-5
TEL 049-292-3981 URL <https://www.yamaneko.info>

微睡(まどろみ)の午後

智恵・さいとうなおこ・神田光子(人形・平面)
5月17日(土)～25日(日)
ストライプハウスギャラリー 東京都港区六本木5-10-33-3F
Tel:03-3405-8108 URL <https://striped-house.com>

人形彫刻 戸田和子展 神秘の森の精霊たち

4月26日～11月10日
妖精美術館 福島県大沼郡金山町大字大栗山字狐穴2765
9:00-17:00 水曜休館(祝日の場合は翌日)
TEL 0241-55-3180 入館料/大人(高校生以上)300円、小中学生200円

・魔法少女の軌跡 -History of Japanese animation for girls-

4月5日(土)～6月29日(日) 月曜休館 *5/7㊟は休館
9:30～17:00 最終受付16:30

創作人形作家による展示

「魔法」「変身」などの本展に関わるテーマを元に、それぞれの思う姿で制作、展示します。

参加作家(敬称略)・秋山まほこ/恋月姫/坂東可菜/吉田良/陽月

横浜人形の家 横浜市中区山下町18番地

TEL 045-671-9361 URL <https://www.doll-museum.jp>

FANTANIMA! (ファンタニマ)

5月1日(木)～5月6日(火・祝)
丸善・丸の内本店4Fギャラリー TEL 03-5288-8881
9:00～21:00(初日は入場制限あり 最終日は15:00閉場) 入場無料
主催 羽関オフィス
URL <https://www.fantanima.nonc.jp/2025/>

マグダレナ・アバカノヴィッチ

「すべては繊維からできている」

8月24日(日)まで開催
TextielMuseum (オランダ)
Goirkestraat 96 5046 GN Tilburg, The Netherlands
TEL +31 (0)13 - 53 67 475

URL <https://textielmuseum.nl/en/exhibitions/Abakanowicz>

このテキストスタイル・ミュージアムは、当会通信でも紹介した人形作家のマーレン・フェアヘルストもキュレーターを務めています。

訃報

菊地拓史(美術家)1968-2025

昨年より闘病中だった菊地拓史氏が4月6日に逝去されました。

山吉由利子さんと三浦悦子さんをはじめとする人形作家の個展やグループ展の会場美術を数多く手がけ、第1回「人・形展」(丸善・丸の内本店ギャラリー)ロゴデザインと美術、球体関節人形展(東京都現代美術館)の会場美術、宣伝美術を担当されました。

心からお悔やみを申し上げます。



杉田明十志人形展



微睡(まどろみ)の午後



FANTANIMA!

展覧会レポート

松沢香代個展「石蟬」

3月17日～3月28日 ストライプハウスギャラリー（六本木）

古代中国では蟬の形に彫った石を死者の口に含ませ、腐敗や損傷から守る、または霊が羽化して仙人として天に昇る風習があったという。その死と復活の象徴である石を石蟬（玉蟬）といい、それを松沢香代さんは個展のテーマとして選んだ。おりしも2024年はアメリカで素数ゼミが大発生した。周期の年数で「13年ゼミ」「17年ゼミ」といわれる二種がともに羽化するの221年に一度のことで、アメリカで一兆匹も発生したと言われている。素数に関わる蟬の命の神秘を思わずにいけない。

しかし私が松沢さんの展示会場に入ったときはその意味も知らず、ただ会場を浮遊する布のオブジェを見ていた。おそらく多くの人が私と同じようにただただ、その針と糸の仕事に圧倒されたのだと思う。

一刺し、一刺しの積み重ねによってつくられた様々な形が、目の前にある。糸のつながりで形を成そうとしている布から、死と生のあいだに漂うなにものが思い浮かぶ。

それは大量の虫が成す驚異的な現象がイメージとして近いかもしれない。たとえば蟻の行列や、私たちの知らないところで大量に蠢く虫たち。長短はあっても今、この世界で私たちと同じように存在し、時を刻んでいる命の形。

眼差しを連想する「羽」、命の出入り口を思わせる穴を囲む透き通った襖（ひだ）がある作品、「白い顔 白い顔の子」「黒い顔 黒い顔の子」には、蛹の顔のしたに羽化の後の蟬の顔が隠されている。黒いふたつの目をもつ誕生前の蟬の顔を見せていただくことができ、やはりこの作品は「人形」だったんだと思った。

日本人は石に穴がふたつあれば人の顔と見てしまう習性があり、それはアニミズムを継承しているからだという話を聞いたことがあるが、松沢さんの作品はその感覚に直結する。その表現は糸や布という素材に導かれていることは間違いない。先入観を超える過剰な針仕事は、松沢さんが自然と命の営みを謳うために不可欠な作業なのだと思う。

（羽関）

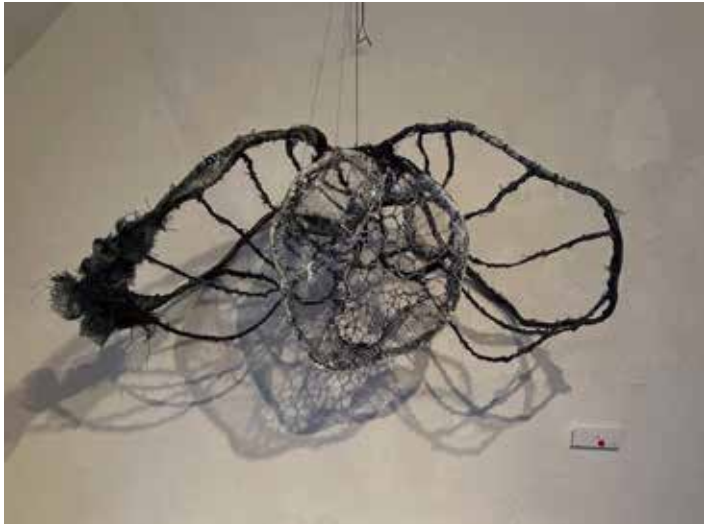




白い顔 白い顔の子



石蟬



羽



ツノゼミ

徒然コラム

ルハンシクからの便りーそれから

羽関チエコ

理事や会員のフリーコラムです

この現代人形研通信の第1号の「徒然コラム」で、ルハンシクの作家レムール・ロリさんについて書かせていただきました。

ウクライナ領だったルハンシクは2022年からの侵攻で、ロシアに占領されました。そこに住む人形作家のレムール・ロリさんと1年以上途絶えていた音信が復活したに関する内容でした。

その後はインターネットも徐々に復活、彼女も日々の制作日記のような画像をインスタグラムに載せることができるようになりました。思えば、ルハンシクや占領地域に住んでいる人が、どのような日常生活を送っているのか、これだけSNSで情報が蔓延しても彼らからの発信を目にしたことはあまりないように思います。私だけが気付かないのかもしれませんが。

彼女は新作の画像をインスタグラムに発表するようになりましたが、作品をルハンシクの外や海外へ発送するのは難しそうでした。しかしロシアの作家のサポートでそれが可能になり、今年のFANTANIMA! にレムール・ロリさんはカムバック出品することができました。

今年のFANTANIMA! でも、また別の作家を頼って作品を送ることができました。

今回は最初からFANTANIMA! の「灯ーAKARI」というテーマに沿って素晴らしい作品を送ってきてくれました。

ペーパーマッシュとは思えない素材感、繊細な作り。コンセプトにあわせて「地水火風」の四元素を象徴する動物をユーモアを交えて表現、その中心にいる山羊の角と目を持つ女王は中世の絵から浮かび上がったような美しい光をまとっています。

こういう作品の実物を見る至福に恵まれたとき、大変な仕事の疲れを忘れ、前に進む力を得ます。できればこのシリーズはミュージアムピースとして、どこかのコレクションとして保管、公開し続けてほしいですが難しいですね。機会がある方はぜひ見ていただきたいです。

彼女に紹介するときの国籍はなんと書けばいいかと尋ねたところ、彼女も悩んで「ベラルーシ」と答えました。ウクライナと名乗れず、ロシアとは名乗りたくなく、自身のルーツの国を選び、今回はベラルーシの作家として参加します。

※ FANTANIMA! の公式サイトは右のQRコードからご覧になれます。
公式サイトにはレムール・ロリの作品全画像を見られるページがあります。



羊の角のある森の女王